



国立大学法人 帯広畜産大学の取り組み

令和3年8月

コ ロナ禍における帯広畜産大学の取り組み

今年で80周年を迎える帯広畜産大学は、新型コロナウイルス感染症による厳しい情勢が依然として続く中、教育研究の推進や地域・社会への貢献に取り組んで参りました。

学生の教育につきましては、オンライン授業の実施にあたり、学生へのWi-FiルータやPCの無償貸与等を行ったほか、通信環境によりリアルタイムで受講できなかった学生への支援としてオンデマンド配信システムを導入し、全学生が安心して確実に受講できる体制を整えました。昨年度後期からは履修者を2グループに分け、対面授業とオンライン授業を併用するハイブリッド授業を行うなど、質を落とすことなく教育を行うことができる体制を構築しております。

また、オープンキャンパスや、例年実施している畜大ふれあいフェスティバル、リベラルアーツ講演会、フードバレーとかち人材育成事業、リカレント教育などの事業につきましては、オンラインにより実施するなど、コロナ禍においても継続して事業を実施することで、地域・社会へ貢献できるよう取り組みを続けております。

昨年より、学生生活が一変した学生に対し、多くの個人・団体・企業様から食料等のご支援をいただいております。コロナ禍において、地域・社会との繋がりを実感することが困難となっている中、このような温かいご支援は、学生にとっても大変心強く感じられたことと思います。この場を借りて心よりお礼申し上げます。今後とも、本学の教育・研究活動にご支援とご理解をいただければと存じます。



帯広畜産大学長

奥田 潔

「国立大学法人北海道国立大学機構」設置による経営改革の推進

本学、小樽商科大学、北見工業大学の三国立大学法人は、令和4年4月の経営統合に向けて、令和3年6月に「経営統合による新たな国立大学法人の経営方針等について（最終まとめ）」をとりまとめ、本学のホームページにて公表しました。

「最終まとめ」において、教育面では、様々な課題に直面する時代に求められる文理融合・異分野融合の知識・技術を有する人材育成を可能とするため、「数理・データサイエンス科目」「地域理解・課題解決型科目」等の文理融合科目や専門及び異分野の知識・技術等を幅広くかつ体系的に学ぶための副専攻型プログラム等の連携教育プログラムの実施、大学間の距離克服のための教育効果の高い遠隔教育手法の開発等について公表しました。また、研究面では、分野融合による知の社会実装を推進し、知識集約型社会の一端を担うため、オープンイノベーション・センターの設置による三大学共同の産学官金連携活動の活性化体制の構築、商・農・工連携プロジェクトであるAI/IoT スマート農畜産業、防災、観光の各プロジェクト構想等について公表しました。

7月には三大学共同記者会見を実施し、会見において、本学の奥田学長は「三大学の教育・研究のシナジー効果を生み出し、北海道経済・産業の発展に貢献するという大きな目標を一致団結して進めたい」、小樽商科大学の穴沢学長は「三大学の融合によって、一層開かれた地域貢献が可能となる。学生に対して、北海道全体がキャンパスとなることを改めて伝えたい」、北見工業大学の鈴木学長は「三大学の強みと特色を生かした教育・研究により先進的な手法を創出することで、北海道の課題解決に取り組み、その成果を、日本全国、世界へ情報発信したい」と、令和4年4月の新法人設立に向けてそれぞれ意気込みを語りました。



▲ 会見中の奥田学長



▲ 穴沢眞小樽商科大学長、奥田学長、鈴木聡一郎北見工業大学長（左から）

NTT東日本と連携協定を締結

本学の有する農畜産業の高度な知見及び研究環境と、東日本電信電話株式会社（以下「NTT東日本」）の有するICTを融合させ、持続可能なスマート農畜産業に関する教育・研究を推進し、社会実装を通じて、農畜産業及び経済の発展に寄与することを目的として、令和2年10月29日、NTT東日本と連携協定を締結しました。

本協定により、本学の農畜産実証フィールドにICTを導入することで、草地管理、飼料管理・設計、牛群管理、食品の加工・販売に至る「Farm to Table」を網羅したデータ収集・統合・分析を行い、スマート農畜産業に関する共同研究、研究基盤の高度化、農畜産分野におけるICT人材育成を連携して行います。また、本実証フィールドを介して、研究成果の社会実装に向けた企業間連携の推進にも取り組んでいきます。



▲ 中村常務取締役と奥田学長

帯広商工会議所と連携・協力に関する協定を締結

令和2年9月25日に、帯広商工会議所と連携・協力に関する協定を締結しました。

この協定は、本学における教育研究活動と帯広商工会議所における商工業の地域振興活動を融合し、地域産業が抱える課題の解決と農業や食品等の活性化に取り組み、北海道十勝地域における産業の持続的発展に寄与することを目的としています。

本連携では、家畜糞尿による環境問題の解決とその有効活用を目指し、本学他8者が協力して、バイオガスプラントから副産物として発生する余剰消化液の資源利用や無害化等の研究開発を実施するため、令和3年4月1日に寄附講座「資源循環環境学講座」を設置し、研究開発をスタートさせました。



▲ 川田会頭と奥田学長

クラウドファンディング事業の進捗

本学では、平成30年度から、READYFOR株式会社と提携したクラウドファンディング事業を行っています。本学第4弾となる「ポニーと子どもがふれあい、笑顔があふれる場所を作りたい」では、馬介在活動室が、「ホースセラピー活動」を進めるうえで必要となるポニー達の安全な繋ぎ場を改修するための支援を呼びかけました。

馬介在活動室では、障がいを持つ方や学校に行きにくい子どもたちに対してポニーとのふれあいや乗馬体験を継続しています。ポニーと最初に交流する場である「繋ぎ場」が老朽化して子どもたちにとって安全な場所とはいえなくなっていました。本学の限られた予算のみでは「繋ぎ場」を改修・設置することは難しい状況でした。

今回のクラウドファンディング事業で目標金額300万円を上回るご支援をいただき、現在、「繋ぎ場」の完成を目指して作業を進めています。

今後も引き続き事業を計画し、研究の活性化や学生の活動支援を図ります。



▲ 乗馬体験を実施する馬介在活動室

一 大学経営統合関連事業として 二 「HACCP・食品安全管理セミナー」を開催

本セミナーは、三大学経営統合関連事業・リカレント教育プログラムの一環として、令和2年度末に全3回にわたり開催されました。

三大学内の教員や外部講師をお招きし、食の安全を守るHACCPの基礎や、企業の社会的責任としての食の安全や地域社会への取り組み、事業継続マネジメントの最新動向の紹介をしました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、講義は全てWeb又はオンデマンド配信としたところ、道内外から合わせて168名の方から申し込みがありました。受講者の中には食品産業関係者のみならず、高校生や調理現場に関わる方々など幅広くご参加いただきました。



▲ セミナーはすべて各拠点からオンラインで配信した

令和3年度は令和4年度の経営統合を見据え、三大学の特徴を活かし、さらに内容を充実させた食の安全管理に関する講義プログラムを開講する予定です。

学 生による酒造りプロジェクト開始

大学構内に設置された酒蔵「碧雲蔵(へきうんぐら)」において、学生による酒造りプロジェクトが開始しました。本学と碧雲蔵を設置する上川大雪酒造株式会社との共同プロジェクトで、同酒蔵の総社氏で本学客員教授の川端慎治氏、社氏補佐で本学大学院生の山根桃華さん(畜産学研究科博士課程1年)の指導のもと、本学の学生が仕込みから醸造の工程にーから携わり、本学オリジナルの日本酒を商品として完成させ、販売を目指すものです。

醸造微生物学を専門とする生命・食料科学研究部門の菅原 雅之准教授の指導学生2名(畜産科学課程4年)が本プロジェクトに参加しており、参加学生は上川大雪酒造株式会社との共同研究にも参加予定です。



▲ 仕込み作業の様子

第2フェーズの終了を迎えたパラグアイ共和国におけるJICA草の根技術協力事業

独立行政法人国際協力機構(JICA)の草の根技術協力事業として、南米パラグアイ共和国において平成28年7月より実施しておりました「東部地域・酪農振興のための農業研修拠点の形成と人材育成支援」プロジェクトが、令和3年6月30日をもって終了しました。

このプロジェクトは、平成23年6月から5年間、同国で実施した「東端畑作地域・酪農技術向上支援」プロジェクトの第2フェーズとして採択され、農協指導員の専門能力が向上し、酪農家への適切な指導が実践できることや、カウンターパート機関である日系セタパール財団を農業研修拠点として機能することを目的として、本学教員による現地での講習会の開催、農協指導員を日本に招聘しての研修事業、農協指導員の農家指導支援、日系セタパール財団職員の大学生等に対する講習会実施支援等を行いました。昨年初めより世界的に広がった新型コロナウイルス感染症の影響を受け、最後の一年は、現地での直接指導ができない状況となりましたが、これまでの活動が土台となり、リモートによる遠隔指導でも農協指導員や日系セタパール財団職員が着実にプロジェクト成果を残す活動を行うことができ、無事終了することができました。

現在は、コロナ禍のためパラグアイへの渡航が難しい状況ですが、JICAより第3フェーズとして「パラグアイ酪農の持続可能な発展をめざすネットワークを活用した酪農家支援体制構築」プロジェクトを採択していただいたことから、今後も引き続き、同国の酪農発展に寄与するよう支援していきます。



▲ 現地農場で人工授精の指導を行う松井教授

「馬 介在活動室が北海道福祉の まちづくり賞を受賞」

馬介在活動室の取り組み「人と馬の絆による教育・研究・社会貢献活動」が、令和2年度北海道福祉のまちづくり賞を受賞しました。

馬介在活動室は平成26年に設置し、障がい者への乗馬体験事業(社会貢献活動)を中心に、障がい者乗馬に関わる教職員及びび学生への技術指導(教育活動)、障がい者に適した乗馬の生産に関する研究(研究活動)など、精力的に活動を展開しています。



▲ 馬介在活動室の事業に協力する学生達

このたびの受賞は、昔から十勝地域で身近な存在である「馬」と「人」の絆をもとに、教育や研究といった大学の特色を活かしながら、障がいのある方への支援活動を実施していることが総合的に評価されたものです。

令 和2年度馬繁殖研修を開催

本学では、馬を用いた教育・研究・社会貢献事業を実施していますが、社会人教育の一環として産業動物臨床獣医師を対象とした「馬繁殖研修」を令和2年8月19日～20日に開催しました。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、Web配信による講義・実習としました。Web講義により受精卵移植や人工授精の手法について説明した後、産業動物臨床棟での受精卵の回収、馬介在活動室フィールドでの人工授精の様子を実習として直接受講生の皆様



▲ 配信する映像を撮影する様子

に配信し、できるだけon siteによる研修に近い形で実施することができました。

受講生からは、「リアルタイムで質疑応答が出来て良かった。」「できれば直接実習の形で研修を受けたい。」などの意見が寄せられました。

環境整備を実施

老朽化していた樹木の転換及び老朽化した道路等の改善を図るため、平成29年に改訂したキャンパスマスタープランに基づき、キャンパスプロムナードを整備しました。

植栽から50年以上経過し、台風等により倒木の被害をたびたび起こしていた樹木を更新、凍害による損傷が著しかった道路や段差の改善、歩行者と車の流れの分離等により安全性を確保するとともに、緑豊かな、環境と調和したキャンパスの形成を目的としています。

これらと共に、緑を孤立させず連続させるグリーンコリドー(緑の回廊)をプロムナードと一体的に整備することで、帯広の自然を繋ぎ、豊かな自然環境を育み、緑の拠点となるようにキャンパスの環境整備を行いました。



▲ 整備したキャンパスプロムナード

帯広畜産大学 リベラルアーツ講演会を開催

本学では、学生の学問や大学生活に対する動機付けの契機として、幅広い教養(リベラルアーツ)を身に付けてもらうという趣旨に加え、広く一般市民の方々にも公開し、地域住民と大学の交流の場、生涯学習の場としても提供することを目的に、平成29年より「帯広畜産大学リベラルアーツ講演会」を開催しています。

令和3年度は創立80周年記念事業として、東京大学宇宙線研究所所長梶田隆章氏をお招きし、「神岡の地下から探る宇宙と素粒子」と題してオンラインでご講演いただき、1,021名が参加しました。



▲ オンラインで講演する梶田隆章氏

企業等集積プラットフォームを 設置

産学連携センターでは、学内外の関係者が気軽に意見交換ができるお付き合いの文化を醸成する、一つのきっかけ作りの場として令和3年3月に企業等集積プラットフォームを設置しました。

このプラットフォームでは、「大学の研究活動をもっと知りたい」といったご意見に応じて、研究者の活動や情報を積極的に発信すると同時に、企業等の皆様が大学に来る機会を増やす取り組みを行います。

ミニ交流会やセミナー開催を通じて大学と企業等の交流を促し、研究開発コンソーシアムの形成や共同研究などの産学官金連携活動を推進していきます。(加盟機関:44機関、令和3年8月現在)



<https://www.obihiro.ac.jp/facility/crcenter/platform>

本学学生が全日本大学対抗ミートジャッジング 競技会において活躍

オンラインで開催された「全日本大学対抗ミートジャッジング競技会」において、帯広畜産大学チーム(畜産科学課程3年(受賞当時)の宮田あゆさん、野村凧沙さん、福島沙耶さん、玉川雄太さん)が、大学対抗の部で第1位を獲得し、宮田あゆさんが個人総合部門第1位となりました。

この競技会は、大学等で畜産学などを専攻する学生を対象として、食肉格付に関する体験的な学習を通じて、畜産業や食肉産業の社会的役割や魅力に対する学生の理解増進を図るとともに、食肉産業界、大学及び学生間の交流を促進し、日本の畜産・食肉産業界の将来を担う人材の養成を目的として毎年開催されているもので、本年度はオンラインにより大会が開催されました。



▲ 牛肉のオブジェを持つ帯広畜産大学チームの玉川さん、福島さん、宮田さん、野村さん、コーチの島袋さん(左から)

大 学ホームページで 「畜大Webフェスティバル」を公開中

本学では、地域の皆様に大学が行っている教育・研究・社会貢献活動の取り組みについて、学生とともに楽しみながら学んでいたことを目的に、例年とかちプラザで「畜大ふれあいフェスティバル」を開催してきましたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、従来のようなイベントとしての実施が困難となったため、大学のホームページ上で大学の取り組みについて知ることができる「畜大Webフェスティバル」を新たに公開しました。



▲ 畜大Webフェスティバルポスター

サイトでは、大学の概略がわかるアニメーション動画や、大学の主要施設が分かる可愛いイラストマップ、本学の教員が監修した畜大クイズを掲載しています。

コロナ禍によりご家庭で過ごす時間が多い中、大学の取り組みについて知っていただく機会になることを期待しています。

コロナ禍によりご家庭で過ごす時間が多い中、大学の取り組みについて知っていただく機会になることを期待しています。